

### 3月議会 一般質問 (加藤鉦一議員)

## 運転免許自主返納者への支援を 市民部長「他の自治体の取組を調査し検討を進める」

7日に行われた鶴岡市議会の一般質問で、日本共産党の加藤鉦一議員は①交通弱者対策、②国民健康保険について取り上げました。

### 酒田市・庄内町では支援を実施



の交付や運転経歴証明書、書類の交付手数料の市の負担、市福祉乗合バスやデマンドタクシーの割引があり、庄内町ではタクシー利用券を申請年度ごとに上限2万円まで交付している。

問 高齢者の運転免許自主返納が広がり、交通弱者が増加している。

答 先に自主返納した人は鶴岡市は何の特典もなかったと、驚きとがっかりの声聞かれる。

返納者の交通手段の確保をどう認識しているか。

市民部長 2月に新庄警察署が実施したアンケート調査を参考にすると、家族による送迎が74%を占め、公共交通機関の利用助成や増便を望む声が40%となっており、公共交通機関への依存度は高くなると認識している。

問 自主返納に対する自治体の支援策はどうか。



酒田市が運行している福祉乗合バス「るんるんバス」。旧市内を中心に5系統が運行され、運賃は1回100円。

果を調査し、地域交通対策と連携して検討していく。

問 庄内町は毎年申請すればタクシー券40枚交付を受けられる。市の対策を早急に求めたい。

市民部長 予算要求のタイミングもあり、なお研究していきたい。

### 国保増税の必要なかったのでは

問 国保について、平成27年度は3億円を超える赤字で、28年度に国保税を1人あたり2万円もの増税を行った。

その結果、28年度の決算見直しはどうか。

健康福祉部長 単年度収支で約3億3000万円もの黒字を見込んでいた。主な要因は、国保税の収納見込みが増えたこと、保険給付費が減ったこと、共同事業の交付金が増えたことによる。

問 27年度の赤字の要因は、C型肝炎など新薬の高額薬剤費の伸びだったか、この問題はどう考えているか。

健康福祉部長 調剤費は、27年6月以降にC型肝炎治療薬のソバルディやハーボニーなどの影響で、前年度比2桁以上の伸びとなった。

28年4月以降は薬価改定による価格引き下げと投薬の減少により、9月以降は前年度比マイナスに転じている。

も導入できないか。企画部長 地域の広い本市では、タクシー利用は高額となる地域が多く、タクシー事業者の有無の地域差もある。

また路線バスや乗合交通手段と比較して非効率であり財政負担も懸念される。

高校などでの定額の通学バスや共通フリーパス券など新しい仕組みについて工夫し、新年度から2ヵ年かけて地域特性に適した施策づくりの検討作業を進めていく。

厚労省では2年に1度実施されている薬価調査を年4回に見直すなど、薬価制度の抜本改革に取り組むとしている。

27年度のような急激な調剤費の増加は緩和されると推察する。

問 国が27年度に1700億円の国保支援をおこなっても、全国の自治体では国保への法定外繰入が増えた。本市でも対応すべきだったのではないか。

健康福祉部長 国では決算補てんなどを目的とした法定外の一般会計繰り入れの解消を図るとしている。

平成30年度から県と市町村の共同運営になると、保険給付に要した費用は県から全額交付されることから、医療費増加による市町村国保の財源不足になることはない。

したがって医療費の増加による法定外繰入の必要はなくなる。

問 28年度の決算見通しで増税分3億3000万円がすっかり黒字に廻る。

27年度の医療費急増に対し、本市でも法定外繰入をしていけば増税の必要はなかったのではないか。

健康福祉部長 一般会計の繰り入れについては、今までの方針が原則でありそれを引き継がなければならない。

# トランプ政権でどうなる日本

田川革新懇が萩原伸次郎 横濱国大名誉教授 招き講演会開催



萩原伸次郎・横濱国大名誉教授

りました。  
トランプ政権の極端なイスラム排除政策や、ロシアとの関係でプーチンに「コンプロマート」（不名誉な情

報）を握られている問題、イスラム国（IS）打倒の軍事行動と安倍政権の追従の危険性など、最新の情報をわかりやすく説明。野党共闘で安倍自公政権からの転換を強く訴えました。

## 消費税増税中止、安倍暴走政治ストップを

### 3・13重税反対鶴岡田川地区集会



挨拶する加藤鉦一市議

3・13重税反  
対鶴岡田川地区  
集会が10日、市  
勤労者会館で開  
催されました。  
工藤博司さん  
の「どうするマ  
イナンバー制度  
」と題した講  
演の後、「消費税増税  
中止、安倍暴走政治ス  
トップ、民主的税制・  
税務行政の実現へ全国  
民が声を上げ、共同を  
広げよう」と特別決議  
を採択しました。

市民税の集団申告をおこないました。

日本共産党を代表して加藤鉦一議員が挨拶を述べ、菅井巖議員が来賓として紹介されました。

## 菅井市議の再選を必ず

### 菅井市議後援会新春のつどい

2月26日、菅井巖市

えました。

議の日本共産党地域後援会主催の新春の集いが行われ、地元をはじめ106人が参加しました。  
後援会を代表し佐藤光雄氏が挨拶に立ち、今秋の市議選での菅井氏再選を参加者に訴えました。  
また、長谷川剛党地区委員長が、市民と野党の共闘の広がりや確信、さらなる共産党躍進への支援を訴え、関徹議員が県政報告と菅井氏への支援を訴

菅井市議は、この間の活動報告と新年度予算を決める3月市議会の様相を語り、市民のくらしを守る立場で再選めざして引き続き奮闘する決意を述べました。  
懇親会では、つきたての餅や、豚汁などを食べながら楽しく談笑し合いました。

## 吉村県政3期目の予算を評価

17日に県議会2月定例会が閉会するにあたり、日本共産党山形県議団として見解を表明しました。

全国でも先進的な、学童保育多子世帯・低所得世帯の利用料軽減、非正規雇用労働者の正社員化・所得向上を総合的に支援する事業、中小企業をトータルに支援する諸事業、私立高等学校等授業料軽減（継続）などを始め、「県民の命と暮らしを守ることを最優先」とする吉村県政の姿勢を様々な具体化していることを全体として評価し、賛成しました。  
一方、知事が参院選挙制度に関

わって憲法改正を求める見解を示したこと、テストを重視した学力向上対策、奥羽・羽越新幹線整備実現の無条件の追求（並行在来線の存廃、建設費用とその負担、環境への影響、既存交通との関係などの検討が必要です）、小国川ダム事業などは賛成できないと表明、真の地域包括ケア構築や県民本位の再生可能エネルギー事業などを課題として指摘しました。  
私が1年10ヶ月の間、議会で取り上げてきた課題も色々と実現、手応えのある吉村県政3期目のスタートでした。（県議 関 徹）

